

地域との協働で「生活日本語」をEラーニングで学ぶ自律学習支援体制づくり 「仕事を探そう 一履歴書」の書き方から面接まで

公益社団法人国際日本語普及協会



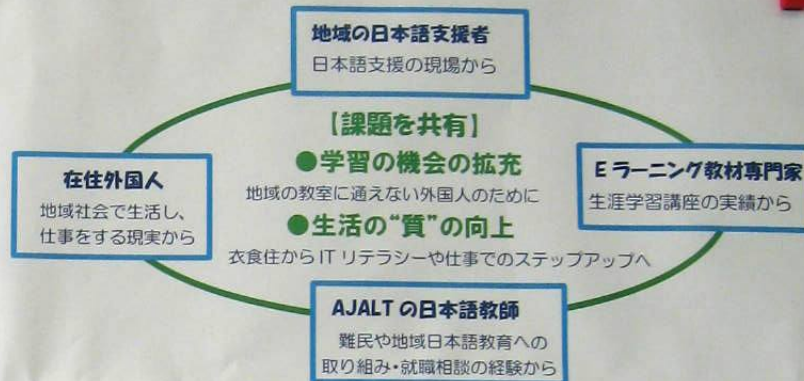
1. Eラーニングシステム構築のプロセス

II. Eラーニング教材の内容と特色

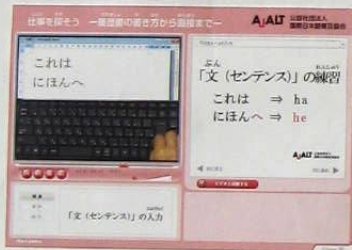
- ◆講師が画面の中から直接語りかける
- ◆N3程度の日本語のみで解説
- ◆動画とイラストの同期で理解を助ける



→PC画面をご覧ください。



1. パソコンの日本語入力



- 外国人の文字学習過程に配慮した段階的構成
- ひらがな・カタカナ・漢字の学習にも役立つ
- ダウンロード用の「ローマ字・かな対照表」

2. 日本語での履歴書の書き方



- 外国人向け履歴書をダウンロードして練習
- 基本情報、経歴、能力、意欲や人柄を伝える
- 母国と日本の制度の違い等、記入上の留意点

3. 日本の面接のマナーと質疑応答



- 日本の会社の面接のマナーを動画で紹介
- 在住外国人とともに模擬面接場面を制作
- 面接でよく聞かれる質問に答える練習

III. 外国人学習者および日本語支援者からのフィードバック

1. 学習者へ方々へのアンケート調査結果

- ・18人（フィリピン・ミャンマー・パキスタン・韓国・中国）30～50代
- ・今後就きたい仕事：留学サポート関係・貿易関係・介護関係・機械操作の仕事
- ・パソコン使用状況：「問題なくできる」50%・「そんなに問題なくできる」50%
- ・履歴書作成経験：「自分で書いたことがある」40%・「助けてもらって書いたことがある」60%

1) 全体を通して役に立つか

(重複回答なし)

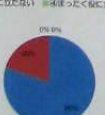
- とても役に立つ
- 役に立つ
- あまり役に立たない
- 役に立たない



2) 日本語の基本操作練習において

役に立つか (重複回答なし)

- とても役に立つ
- 役に立つ
- あまり役に立たない
- 役に立たない



スクーリング風景(於 AJALT)

①役に立った点

- ・ひらがなの入力
- ・基本的な面接スキルを身に付けることができた

②難しい点

- ・漢字語彙を書く
- ・志望動機を書く

③どんな教材があったらよいと思うか

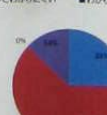
- ・職務経歴書の書き方
- ・就職、就職活動に必要な漢字

2. 支援者の方々へのアンケート調査結果

・16人（協力団体6団体）

1) 講師の説明について

- とてもわかりやすい
- わかりやすい
- わかりにくい
- とてもわかりにくい



2) 説明に使っている言葉について

- とてもわかりやすい
- わかりやすい
- わかりにくい
- とてもわかりにくい



① 良い点

- ・履歴書がダウンロード出来るのが良い。
- ・面接については、入室から退室までの説明がわかりやすいので良かった
- ・日本語入力から履歴書作成、面接と一連の流れで出来ており、きめ細かいEラーニングシステムだった

② 工夫したほうが良い点

- ・PCの日本語入力は漢字変換などかなり難しい。練習を繰り返してい、指導者がよくチェックをする必要があると実感した
- ・私が支援した学習者にとっては語彙が少し難しすぎたようで、順調には進まなかったようだ
- (しかし、履歴書がどういふものかを学習者がきちんと理解できたと思う)

「やさしい日本語地域ニュース」による新たな繋がり

— 栃木県全域に流れるFM放送ニュースで実践して感じた、やさしい日本語が秘める無限の可能性—

○堀部俊夫¹・栗又 由利子²

(FM 栃木正規代理店 (有)アドホリック 代表取締役¹・(株)ティビィシー国際外語学院 地域日本語教育コーディネーター²)

企画を作成する

栃木県で生活する外国人が知りたいことは何か？

- 市の広報などに有る期間限定イベントなどの情報が得にくいもの
- だけど文字は苦手。難しい言葉は苦手
- だったらラジオが一番いいのではないか！

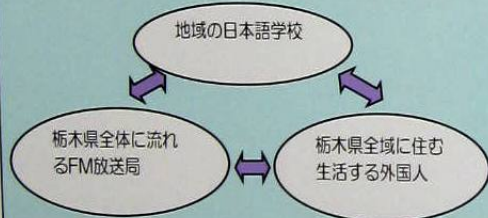
地域性の高い「やさしい日本語地域ニュース」はどうだろうか？ ⇒ 取組1

「やさしい日本語地域ニュース」は教材にならないだろうか？ ⇒ 取組2

「やさしい日本語地域ニュース」はボランティア教室でも使えないだろうか？ ⇒ 取組3

取組1：FM放送局と日本語学校の繋がり

毎週放送される「やさしいにほんご地域ニュース」

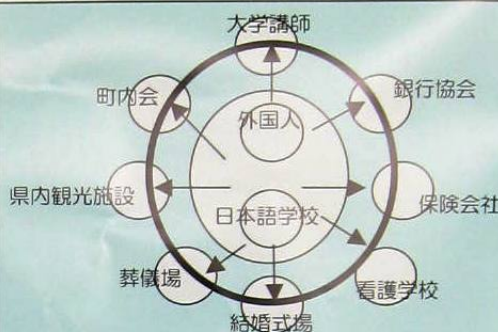


ニュース内容は外国人主体の「ニュース選定会議」にて決定

結果

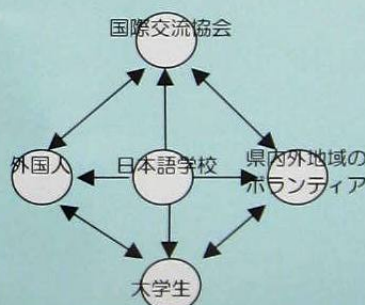
- ◇ FM局に外国人の存在を理解してもらえた
- ◇ 地域の日本人に外国人の存在を意識してもらえた
- ◇ 外国人に役に立つニュースを流せた。

取組2：日本語学校と地域の繋がり



日本語教師の限界→各分野の専門家を招く
⇒日本人専門家が「外国人」「やさしい日本語」を理解する

取組3：日本語学校と地域ボランティアの繋がり



企業だから出来る事 ⇒ 県を越えたボランティア同志の連携

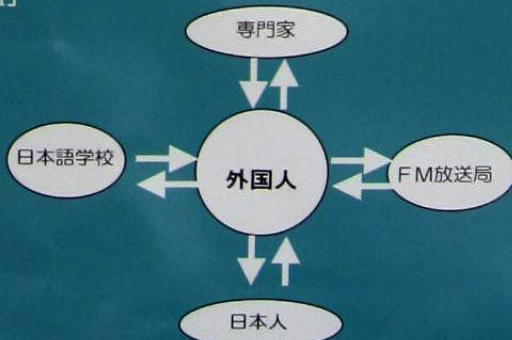
平成25年度「やさしい日本語生活情報番組」

- 番組名【やさしい日本語で教えて】
- 10月より毎月第一木曜日
09:28~10:00の間の
10分間放送します！

平成24年度に取組の一つとして行った専門家を招いた講座の発展形

FM栃木にて栃木県全域に放送する

- 外国人・日本語教師・各分野の専門家の3人でテーマについての外国人の疑問に答える。
- 番組内で紹介されない部分を、日本語教室という形でフォローする。



FM橋本での会議



外国人との会議2ベトナム・中国



外国人との会議1ブラジル・ペルー



外国人との会議3ネパール・ブラジル



まずは日本語の勉強！（日本語教師が対応）



お待ちかねの本物のアルパカとの対面



そのあと、どうぶつ王国の人から話を聞きます。



当館にいた約100名の技能実習生も楽しいひと時を過ごしました。



RAD/O BERRY
76.4FM

やさしい日本語
地域ニュース

「やさしい日本語」って？
外国人の人や、ことでもわかる少し簡単な日本語のことです。
「やさしい日本語」って？
外国人の人や、ことでもわかる少し簡単な日本語のことです。
「やさしい日本語」って？
外国人の人や、ことでもわかる少し簡単な日本語のことです。

8月4日から毎週土曜日
12:26~12:29
時間（じかん）

株式会社エフエム橋本
宇都宮市中央 1-2-1
TEL: 028-638-7840
http://www.berry.co.jp/radio/

「やさしい日本語で教えて」
外国人の人や、ことでもわかる少し簡単な日本語のことです。
「やさしい日本語」って？
外国人の人や、ことでもわかる少し簡単な日本語のことです。
「やさしい日本語」って？
外国人の人や、ことでもわかる少し簡単な日本語のことです。

11月から毎月第1木曜日
09:28~10:00
時間（じかん）

株式会社エフエム橋本
宇都宮市中央 1-2-1
TEL: 028-638-7840
http://www.berry.co.jp/radio/



セレモニーホール見学



結婚式場見学



看護学校訪問



銀行協会講義



MONTHLY ME TABLE
FEBRUARY Vol. 22

2

CONCERT SCHEDULE

RECORD & BROADCAST

地元自治会と餅つき実施





RAD/0 BERRY

「やさしい日本語地域ニュース」による新たな繋がり

— 栃木県全域に広がるFM放送ニュースで実践して感じた。やさしい日本語が始める可能性 —
FM栃木放送局(栃木県)・FM放送局(栃木県)・FM放送局(栃木県)・FM放送局(栃木県)

企画を推進する

栃木県で生活する外国人が抱える悩みは何か？

- 市の応用などに有る情報提供イベントなどの情報が届かない
- だけども文字は苦手。難しい言葉は苦手
- だったらラジオがー聞いていいのでは？

地域性の高い「やさしい日本語地域ニュース」はどうだろうか？ ⇒ 取組1

「やさしい日本語地域ニュース」は教材にないだろうか？ ⇒ 取組2

「やさしい日本語地域ニュース」はボランティア教室で使えないだろうか？ ⇒ 取組3

取組2：日本語学校と地域の繋がり

日本語学校の運営に各分野の専門家を招く
⇒ 日本人専門家が「外国人」「やさしい日本語」を支援する

取組1：FM放送局と日本語学校の繋がり

毎週放送される「やさしいにほんご地域ニュース」

ニュース内容は外国人生活の「ニュース」をテーマに決定

結果

- ◇ FM局に外国人の存在を認識してもらえた
- ◇ 地域の日本人に外国人の存在を認識してもらえた
- ◇ 外国人に役立つニュースを流せた

取組3：日本語学校と地域ボランティアの繋がり

授業から出来る事 ⇒ 前を越えたボランティア活動の連携

平成25年度「やさしい日本語生活情報番組」

- 番組名【やさしい日本語で教えて】
- 10月より毎月第一木曜日 09:28~10:00の間の10分間放送します！

平成24年度に取組の一つとして行った専門家を招いた講座の発展形

FM栃木にて栃木県全域に放送する

- 外国人、日本語教師、各分野の専門家の3人でテーマについての外国人の疑問に答える
- 番組内で紹介しきれない部分を、日本語教室という形でフォローする





【地域の現状】

横浜市鶴見区

市内最大の
南米出身者
コミュニティ



- ◆ 仕事優先で日本語を体系的に学ぶ機会がないため、在日年数が長くても日本語レベルは総じて低い。
- ◆ 働きながら子育てをしている人が参加できる日本語教室がほとんどない。

【課題】

当団体が行う生活相談によく寄せられる内容より、地域で安心して生活し、次世代を担う子ども達の進路に積極的に関わるためには以下の課題を解決する必要がある。

- ◆ 学校や役所からの文書が読めない
- ◆ 教師や地域住民とコミュニケーションがとれない
- ◆ 時間帯や内容など、生徒のニーズに合った日本語教室がない

目標設定

- ◆ 定住化の進む外国籍保護者が、日本での子育てに対する不安を軽減し、子どもの教育に積極的に関われるようにする。
- ◆ 移民第2世代の進路選択をサポートするための、保護者への情報及び意識啓発を行う。
- ◆ 地域社会の各種行事に外国人住民が参加することで、地域生活を充実させる。



【取組の内容】

取組 2：

外国籍保護者を対象とした 日本語教室の開催

《目標》

◎学校や行政から配布される文書等で汎用される語彙や表現を学ぶ。

◎学校や区役所でのやりとりをスムーズに行えるようなコミュニケーション能力の向上を目指す。

《内容》

外国籍保護者を対象とした日本語教室の開催

《参加者総数》

27人（国籍別内訳 ブラジル 21人 インド 3人
ボリビア・アルゼンチン・中国・コロンビア各 1人）

《開催時間数》

99時間〈全 33回〉



NPO 法人 ABC ジャパン

取組 3：

学校および自治会と連携した オリエンテーションの実施

《目標》

◎外国籍保護者の生活における意識啓発や地域社会への参加を促進する。

《内容》

子育てや子どもの教育、防災等に関する情報提供を行うオリエンテーションを企画

《参加者総数》

68人（国籍別内訳 ブラジル 22人 中国 10人
ボリビア 8人 アルゼンチン 6人 コロンビア 4人
インド 4人 日本 14人）

《開催時間数》

16時間〈全 8回〉

取 組 の 成 果

◎「地域生活にフォーカスした日本語教室」
「専門家によるオリエンテーション」
を並行して行うことができた。

◎事前に相談を受けた不安を事業に組み込むことで、外国籍保護者の子どもの教育への積極的参加を促すことができた。

◎日本語教室やオリエンテーションへの参加をきっかけに需要把握、相談解決をすることができた。

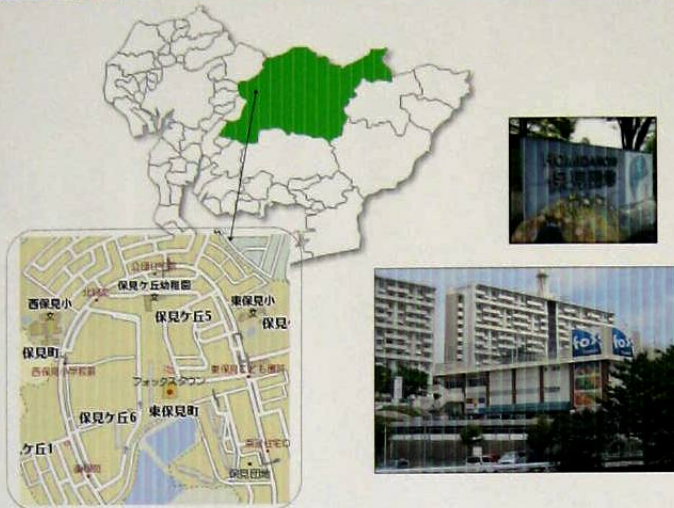
◎進学に関するオリエンテーションから、移民第2世代の学生同士をつなげることができた。

【今後の課題】

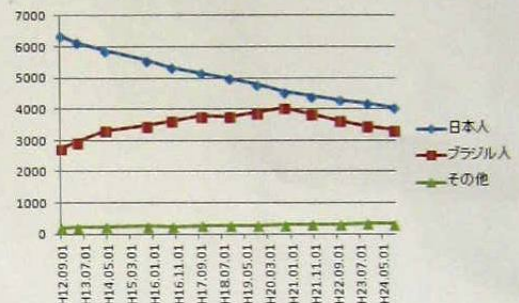
- ◆今回の取組で得た、外国人生活者がこういった支援を必要としているかということをも他団体と情報共有し、今後のサポートに生かしていくことが求められる。
- ◆外国人生活者が、働きながらも日本語を学べるような、臨機応変に授業が組める日本語教室の体制整備が必要である。

「豊田市保見団地」地域連携による日本語学習推進事業 —やさしく、たのしく、みんなで日本語、いきいき ワクワク HOMIのまち— NPO法人保見ヶ丘国際交流センター

愛知県豊田市「保見団地」はこんなところ



日本人及び外国人の人口推移 —保見ヶ丘—



事業を通じた連携体制

運営委員会(豊田市国際課、猿投支所、豊田市国際交流協会、名古屋大学など)

取組1:実行委員会(自治会役員、NPO団体など)

取組2:「高齢化」
(保見ヶ丘ケアセンター)

取組3:「防災」
(自治会主催防災フェスタ)

取組4:「多文化交流」
(UR都市機構)

取組5:「地域自治」
(自治会主催ふれあい祭)

取組6:事業評価とシンポジウム

団地内で活動する2つの日本語教室

HOMI GO

NPO法人保見ヶ丘国際交流センター
(主催/運営)

日曜日 10:00~12:00
3クラス(入門・初級・中~上級)/子どもクラス

保見にほんご教室

保見ヶ丘ブラジル人協会(主催)
とよた日本語学習支援システム(運営)

金曜日 19:30~21:00
2クラス(会話 読み書き)

どちらの教室も対話による交流を中心とした
活動を行い、ふりかえりの時間をとる



取組の流れ：「考える」会議⇒「もっと知る」勉強会⇒「やってみる」イベント⇔教室活動

「高齢化」をテーマにした活動



- ・勉強会講師の「保見ヶ丘ケアセンター」職員と一緒にイベントを実施
- ・教室活動では、家族や老後の生活について話し合う

イベントちらし

健康クイズ

介護体験

ラジオ体操

「防災」をテーマにした活動



- ・勉強会で出た避難所体験イベント企画は見送る
- ・教室活動で得た防災知識をイベントの防災クイズにつなげる

勉強会

地域行事参加

教室活動

イベント

「多文化交流」をテーマにした活動



「朝市」の活動紹介



料理レシピを書く



- ・教室活動で「ふれあい祭り」に出店する準備をする
- ・「フリーマーケット」開催の許可をURより得る

勉強会

教室活動

イベント

HOMIGOパンフレットを配布

「まちづくり」をテーマにした活動

勉強会



「高蔵寺ニュータウン」訪問



イベント「保見のいいところ見つけ隊」



教室活動

シンポジウム会場
で展示



シンポジウム「保見づくり」開催



ちらし



コーディネータによる
事業報告



自治会役員らによる
座談会



会場の様子



成果物



成果

学習者の主体的・実践的な
日本語学習ができた！

自治会役員が実行委員に
なり、シンポジウムに登壇

課題

ボランティアによる事業運営
には限界がある...

自治会役員と日常的な連携が
進んだとは言えない...

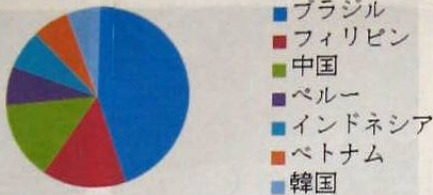
外国にルーツをもつ子どもたちのための環境整備

HAHAHA

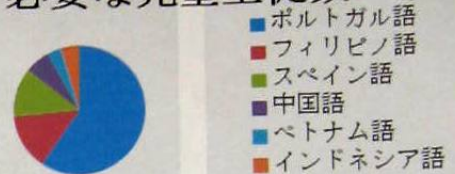
西尾市の実情

人口：169,742人 外国人：5,528人（全体の3.2%）

国別外国人住民の数



母語別日本語指導が必要な児童生徒数



子どもを取り巻く環境

困り感

あの子は困った子だ。

学校に来ない。

暴力的。

忘れ物が多い。

・母子家庭、父子家庭、生活保護、DV、ドラッグ、犯罪、いじめ、異文化間ストレス、学習困難。。

保護者を取り巻く環境

困り感

あの家庭はどうしようもない。

なかなか連絡がとれない。

・失業、DV、精神不安定、家族の心配、職場ストレス、異文化間ストレス、必要な情報が得られにくい。。

担当者を取り巻く環境

困り感

あの人は何もしてくれない。

無能な人だ。

・情報不足、異文化に対する理解困難、膨大な仕事量、上司・同僚の無理解、対処法がわからない。。

子どものことをよりよく知ろう♪

（取組4「二言語の対話型段階的読み学習の実践」）

保護者の声に耳を傾けよう♪

（取組2「外国にルーツをもつ子どもの親のきもち」）

それぞれの困り感を知り、連携して情報を集めて、背景や原因を見極め（**アセスメント**）、解決に向けた目標設定および役割分担をきめる、具体的な手立てを考えよう（**プランニング**）♪

（取組1「連携体制づくりのための講座」）

コーディネーターの役割：

それぞれの“強み”を生かす

おかげさまで**支え合いの輪**が広がり始めました♪（取組3「実践報告会 外国にルーツをもつ子どもを真ん中に～西尾市での医療福祉教育の連携の試み～」）

成果

保健師に現状を理解していただき、妊婦の時から保護者に働きかける第一歩を踏み出すことができた（「子育てガイドブック西尾っ子+α」多言語化）。

本年度の取り組み

いろんな専門家に現状を理解していただく。本年度は“消防署”で「やさしい日本語講座」実施をサポートする。

取組4「二言語の対話型段階的読みの学習の実践」

(3時間×5回)

- ①ニーズ分析&実践報告
- ②二言語の対話型段階的読みの学習の実践Ⅰ
(概論を学ぶ)
- ③二言語の対話型段階的読みの学習の実践Ⅱ
(受講生の実践報告、受講生の実践から学ぶ)
- ④二言語の対話型段階的読みの学習の実践Ⅲ
(受講生の実践(録画)から学ぶ、個別プログラム作成)
- ⑤二言語の対話型段階的読みの学習実践Ⅳ
(年少児の読書習慣や読書力が子どもの将来の理解力に大きく影響することを改めて気づく。年齢別読書力の各ステージを確認する。)

取組2「外国にルーツを持つ子どもの親のきもち」(7時間+6時間)

- ①アイスブレーキングをしながら、いろんなテーマについて話を引き出す。ストーリーを作る。
- ②ストーリーに合わせて画像やイラストを用意する。パソコンソフト「ムービーメーカー」を使って取り込む。録音をする。



取組1「連携体制づくりのための講座」

(2時間×6回)

- ①ニーズ分析、ケース会議とは
- ②ケース会議①
アセスメント、プランニング。
事例からカンファレンスシートに情報を書き込む。
- ③多文化多言語環境に育つこどものアイデンティティ
- ④ケース会議②
- ⑤西尾市多文化子育て支援事業
～プレスクールプログラムを中心に～
- ⑥ケース会議③
(よりよい環境をつくるケース会議とは、つながる、協働できる相手を知る、相手の役割を知る。チームワークによりできることを学ぶ。)

取組3「実践報告会 外国にルーツをもつ子どもを真ん中に～西尾市での医療福祉教育の連携の試み」(3時間)

“外国にルーツのある子ども・保護者は私たちの仲間であり、西尾市を支える大切な市民である” “子どもは社会の宝”。しかし彼らは多くの“困り感”を抱えて暮らしている。外国にルーツのある子どもの未来を見つめ、一人でも多くの人が彼らの現状をしっかりと理解して力を合わせて課題克服に取り組んでいけるように活動してきた。これまでの取組でできた協力体制・支え合いの輪の広がり、成果と課題、今後の展望を報告した。

